

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	情報処理技術	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	#####
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊					開講期	後期
実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講 義	評価方法	今期評価なし 取組加減
〔授業概要・目的〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのパソコン操作能力の向上を図る。 ・サービスフロントシステムの概要を理解し、操作能力を高める 							
〔授業目標〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使用しインターンシップ報告資料の作成ができる。 							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
ディーラーオペレーション研修テキスト 各自PC パワーポイントソフト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	6(6)	インターンシップ報告資料作成 パワーポイントソフト利用による報告資料作成					
		・拠点概要、従業員数等		・研修内容		・今後の課題 ・課題対応	
		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ＊その他報告に必要な項目の設定と作成 					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車概論	小教科目	自動車概論Ⅱ	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04
教科担当		松下 忠史 渡邊 英俊					
実務経験教員授業	非該当	総時限	21時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 単元・期末試験
取組加減							
[授業概要・目的]							
・国家1級総合診断・環境保全・安全管理、法令教材テキスト記載の内容の知識を習得する。							
[授業目標]							
・国家1級総合診断・環境保全・安全管理、法令教材テキストの理解を深め国家1級合格レベルの知識を習得する。							
[学習評価の基準]							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
[使用教科書・教材等]							
国家1級テキスト ・総合診断・環境保全・安全管理							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	1(1)	環境 地球規模の環境保全とその必要性					
	1(2)	環境 産業廃棄物処理の環境保全					
	1(3)	環境 P R T R 法					
	1(4)	環境 整備事業所等の固定施設の環境保全					
	1(5)	安全 安全管理意識					
	1(6)	安全 火災のあらまし					
	1(7)	安全 災害防止 防火防災					
	1(8)	安全 職場における防火防災					
	1(9)	安全 救急処置についての心得					
	1(10)	法令 自動車の登録等 施行規則の別表					
	1(11)	法令 保安基準 点検基準					
	1(12)	法令 道路運送車両の検査等					
	1(13)	法令 保安基準<自動車の寸法等>					
	1(14)	法令 保安基準<原動機等>					
	1(15)	法令 保安基準<車枠及び車体等>					
	1(16)	法令 保安基準<騒音防止装置等>					
	1(17)	法令 保安基準<灯火装置等>					
	1(18)	法令 保安基準<警告器等>					
	1(19)	法令 自動車 NOx・PM法					
	1(20)	総合復習(19種類のプリントの内容の見直し、復習)					
	1(21)	単元確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車概論	小教科目	エンジン制御システム	対象級	専門課程 一級自動車整備研 究科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
実務経験教員授業	非該当	総時限	21時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 単元・期末試験
取組加減							
〔授業概要・目的〕							
・国家1級エンジンテキスト記載の内容の知識を習得する。							
〔授業目標〕							
・国家1級エンジンテキストの理解を深め国家1級合格レベルの知識を習得する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
国家1級テキスト ・エンジン電子制御装置							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	1(1)	電気・電子回路の基本と測定技術知識の習得(プリントE-1使用)					
	1(2)	オシロスコープの活用知識の習得(プリントE-2使用)					
	1(3)	電気回路の構造、機能、点検知識の習得(プリントE-3使用)					
	2(5)	センサ関連知識の習得(プリントE-4～E-5使用)					
	4(9)	アクチュエータ関連知識の習得(プリントE-6～E-9使用)					
	2(11)	CAN通信システム知識の習得(プリントE-10～E-11使用)					
	1(12)	電子制御装置に関する故障診断の進め方(プリントE-12使用)					
	1(13)	センサ系の故障診断(プリントE-13使用)					
	1(14)	エンジン警告灯無点灯時の点検、整備方法(プリントE-14使用)					
	1(15)	新技術 ハイブリッド車関連の知識の習得(プリントE-15使用)					
	1(16)	新技術 圧縮天然ガス自動車関連の知識の習得(プリントE-16使用)					
	1(17)	新技術 筒内噴射式ガソリン・エンジン関連の知識の習得(プリントE-17使用)					
	1(18)	新技術 コモン・レール式高圧燃料噴射装置関連の知識の習得(プリントE-18使用)					
	2(20)	総合復習(18種類のプリントの内容の見直し、復習)					
	1(21)	単元確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車概論	小教科目	シャシ制御システム	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
実務経験教員授業	非該当	総時限	21時限	授業方法	演 習	評価方法	学科試験 単元・期末試験
〔授業概要・目的〕							
・国家1級シャシテキスト記載の内容の知識を習得する。							
〔授業目標〕							
・国家1級シャシテキストの理解を深め国家1級合格レベルの知識を習得する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
国家1級テキスト ・シャシ電子制御装置 ・自動車新技術							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	3(3)	AT関連知識の習得(プリントC-1～C-3使用)					
	3(6)	EPS関連知識の習得(プリントC-4～C-6使用)					
	3(9)	ABS関連知識の習得(プリントC-7～C-9使用)					
	3(12)	オート・エアコン関連知識の習得(プリントC-10～C-12使用)					
	3(15)	振動、騒音関連知識の習得(プリントC-13～C-15使用)					
	1(16)	CVT関連知識の習得(プリント新-5使用)					
	1(17)	VSA関連知識の習得(プリント新-6使用)					
	1(18)	SRS関連知識の習得(プリント新-7使用)					
	2(20)	総合復習(18種類のプリントの内容の見直し、復習)					
	1(21)	単元確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 サービスマネジ メント	小教科目	サービスマネジメントⅡ	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
実務経験教員授業	非該当	総時限	32時限	授業方法	実習・実 技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・サービスマンとしての知識・技術の習得を通じ、自己のスキルアップを目指す。 ・企業実習の事前研修として与えられた課題を履修する。 							
〔授業目標〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・販売会社が求めるサービスマンとしての知識、技術力を身につける。 ・SE2級資格受験レベルの知識、技術力を身につける。 							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
・法令教材 ・SE2級テキスト ハード編、ソフト編							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	16(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車販売に関する周辺知識(別資料にて説明) ・点検整備・洗車サービスの概要(記録簿の記入、洗車のポイント) ・車庫入れ実践 ・作業実践(各種点検整備、洗車、ブレーキ系整備、ワイパーブレード交換等の付帯作業) 					
	2(18)	実習確認					
	2(20)	SE2級実技試験対応授業					
		<ul style="list-style-type: none"> ・各種センサ、アクチュエータの点検確認方法の復習 ・お客様苦情対応の練習 					
	4(24)	SE2級認定確認					
	8(32)	企業実習対応					
		<ul style="list-style-type: none"> ・作業実践各種実習車両、教員自家用車を使用してのまごころ点検、洗車、付帯作業の実施 					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 体験実習	小教科目	企業実習	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04		
教科担当	松下 忠史	渡邊 英俊	実習先企業					開講期	後期
実務経験教員授業	該当	総時限	84時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価 取組加減		

・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

[授業概要・目的]

- ・授業で学んだ理論と技術を実際の職場で実践、確認することで、自己の弱点を把握し、卒業までの具体的な課題と目標を明確にする。
- ・社会人としての自覚、お客様に対する意識の向上を図る。 ・販売店業務及びサービス実務内容の全般を理解する。

[授業目標]

・現場で体験した自己の弱点に対して具体的な課題克服目標を持つ。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

授 業 計 画 表

No. 1

STEP	標準時限	授業内容(項目)
	84	第2回インターンシップ 実働21日以上
		①サービススタッフの基本
		朝礼参加 毎日スピーチ (前日の実習内容と当日の目標)
		②点検整備及び修理の実施 ※時間、効率を考えた作業の実践
		クイックサービス (ディスクパッド、ブレーキシューの交換等)
		定期点検 (24ヶ月点検、車検整備)
		電子制御装置を含む故障診断 (症状の確認から診断、HDSの活用、修理方法の習得)
		③サービス業務の理解と実践
		フロントアドバイザーの基本作業の習得(1回目の復習、及び引渡し業務)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 体験実習	小教科目	企業実習	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04
教科担当	松下 忠史	渡邊 英俊	実習先各企業				
実務経験教員授業	該当	総時限	44時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価 取組加減
<p>・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。</p>							
<p>[授業概要・目的]</p> <p>・授業で学んだ理論と技術を実際の職場で実践、確認することで、自己の弱点を把握し、卒業までの具体的な課題と目標を明確にする。</p> <p>・社会人としての自覚、お客様に対する意識の向上を図る。 ・販売店業務及びサービス実務内容の全般を理解する。</p>							
<p>[授業目標]</p> <p>・現場で体験した自己の弱点に対して具体的な課題克服目標を持つ。</p>							
<p>[学習評価の基準]</p> <p>各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。</p> <p>5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの</p> <p>各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点</p> <p style="text-align: center;">60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。</p> <p>レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)</p>							
<p>[使用教科書・教材等]</p>							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	44	第1回インターンシップ					
		①サービススタッフの基本					
		心構え、言葉遣い、挨拶、朝礼参加 毎日スピーチ(前日の実習内容と当日の目標)					
		②点検整備及び修理の実施 ※時間、効率を考えた作業の実践					
		クイックサービス(エンジンオイル、灯火類の交換等)					
		定期点検(まごころ点検、12ヶ月点検)					
		簡単な故障診断(症状の確認から診断、修理方法の習得)					
		③サービス業務の理解と実践					
		作業の流れ(受付、整備作業、引渡し、お確かめフォロー)の理解					
		フロントアドバイザーの基本作業の習得(受付、作業指示、作業管理)					
		第2回インターンシップ:10月予定					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 評価実習	小教科目	専 門 実 習	対 象 級	専 門 課 程 一 級 自 動 車 研 究 開 発 学 科 4 年	作 成 月 日	#####
						開 講 期	後 期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
実務経験教員授業	非該当	総時限	22時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・ エンジ・シャシ系各部門の電子制御装置の構造・機能の完全理解と基礎故障診断技術の習得 ・ CAN通信システムの概要習得 							
〔授業目標〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1級整備士としての実践的な故障診断技術を身につける。 ・ CAN通信システムの概要を理解する(ホンダ内でのCANの種類、表記内容を知る) 							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
・1級テキスト エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・SE2級テキスト ハード編							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授 業 内 容 (項 目)					
	8(8)	・ ZEインサイトを使用してCAN通信信号波形の観測及び信号電圧、終端抵抗の確認					
	8(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・ GBフリードでオシロスコープを使用してCAN通信信号波形の確認 ・ ホンダにおけるCAN通信の概要 					
	2(18)	総合復習					
	4(22)	実習確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 評価実習	小教科目	専 門 実 習	対 象 級	専 門 課 程 一 級 自 動 車 研 究 開 発 学 科 4 年	作 成 月 日	#####
						開 講 期	前 期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
実務経験教員授業	非該当	総時限	68時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン系センサの信号電圧、アクチュエータの駆動信号電圧の理解度を向上させる ・DMM・オシロスコープ・半導体・外部診断機等専門知識の幅を広げる 							
〔授業目標〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級整備士としての実践的な整備技術を身につける。 							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級テキスト エンジン電子制御 ・SE2級テキスト ハード編 							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授 業 内 容 (項 目)					
	14(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・ZEインサートを使用してHMMトランスミッション及びEPSの脱着を行う 1、電子マニュアルにて作業手順を調べてから作業を行う 2、エンジンハンガー、ミッションジャッキの使用 방법에注意 3、ステアリングの脱着を伴うのでエアバックコードリールの取り扱いに注意する 4、中点値の書き込み方法を理解する 5、マルチインフォメーションメータにてHMMフルードの交換時期の検索方法を理解する 					
	14(28)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルマルチメータ、オシロスコープを使用して半導体について調べる 1、デジタルマルチメータの内部抵抗を計算する 2、オシロスコープ（デジタル式）の使用方法を習得する 3、デジタルマルチメータ、オシロスコープを使用して半導体の特徴を調べて理解する 					
	2(30)	総合復習					
	4(34)	実習確認					
	14(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・GBフリードを使用して各種センサの信号電圧を確認する 1、水温センサ 信号電圧の点検 2、バキュームセンサ信号電圧の点検 3、APセンサ 信号電圧の点検 4、油圧警告灯 信号電圧の点検 ・GBフリードで各種センサ、アクチュエータの信号電圧を変化させて症状を確認する 1、バキュームセンサ信号電圧特性変化 2、水温センサ 信号電圧特性変化 					

		3、インジェクタ駆動信号特性変化
		4、イグナイタ駆動信号電圧特性変化
14(28)		•ZEインサイトを使用して各種センサの信号電圧を確認する
		1、水温センサ 信号電圧の点検
		2、バキュームセンサ信号電圧の点検
		3、エアフローメータ信号電圧の点検
		4、スロットル開度センサ信号電圧点検
		5、AP（アクセルポジション）センサ 信号電圧の点検
		6、油圧警告灯 信号電圧の点検
		•ZEインサイトで各種センサの信号電圧を変化させて症状を確認する
		1、O2, LAFセンサ信号電圧特性変化
		2、ノックセンサ信号電圧特性変化
		3、クランク角センサ信号特性変化
		4、カム角センサ信号電圧特性変化
2(30)		総合復習
4(34)		実習確認

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 評価実習	小教科目	応用実習	対象級	専門課程 一級自動車整備研 究科4年	作成月日	19/04/04
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊					開講期	後期
実務経験教員授業	非該当	総時限	64時限	授業方法	実習・実 技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減
[授業概要・目的]							
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン・シャシ系各部門の電子制御装置の総合診断技術を習得 ・新技術・振動騒音等専門知識の幅を広げる 							
[授業目標]							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級整備士としての実践的な整備技術を身につける。 							
[学習評価の基準]							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
[使用教科書・教材等]							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級テキスト エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・SE2級テキスト ハード編 							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	14(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・ZEインサイトを使用して各システムのセンサ、アクチュエータの点検、確認を行う <li style="margin-left: 20px;">1、ホンダマルチマチック・トランスミッションのセンサ・アクチュエータの確認 <li style="margin-left: 20px;">2、ATシフトロックシステムの点検 <li style="margin-left: 20px;">3、オートエアコンシステムについて 					
	14(28)	<ul style="list-style-type: none"> ・GBフリードを使用してオートエアコン各部のセンサ・アクチュエータの点検方法理解と正常・異常時の比較をする ・GBフリードを使用して灯火装置等のアース不良時の症状確認を行う 					
	2(30)	総合復習					
	2(32)	単元確認					
	14(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・GBフリードにて下記の症状の時の故障診断を行い不良箇所の特定制を行う <li style="margin-left: 20px;">1、スタータが作動しない <li style="margin-left: 20px;">2、アクセルレスポンスが悪い <li style="margin-left: 20px;">3、センサ・アース回路の点検 <li style="margin-left: 20px;">4、エンジン不調 					
	14(28)	<ul style="list-style-type: none"> ・ZEインサイトで下記項目を実施する <li style="margin-left: 20px;">1、二次空気を吸わせてエアフローメータのデータ変化をHDSで確認する <li style="margin-left: 20px;">2、エアフローメータで外部電源(1.5V乾電池)を使用して切り分け法の故障診断を実施 <li style="margin-left: 20px;">3、バキュームセンサでHDS、スイッチBOXを使用して断線、短絡時のデータを測定し正常時と比較する <li style="margin-left: 20px;">4、アクセルポジションセンサでHDS、スイッチBOXを使用して断線、短絡時のデータを測定し正常時と比較する 					
	2(30)	総合復習					
	2(32)	単元確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 評価実習	小教科目	応用実習	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	#####
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
実務経験教員授業	非該当	総時限	52時限	授業方法	実習・実 技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン・シャシ系各部門の電子制御装置の総合診断技術を習得 ・新技術・振動騒音等専門知識の幅を広げる 							
〔授業目標〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級整備士としての実践的な整備技術を身につける。 							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級テキスト エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・SE2級テキスト ハード編 							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・導入説明及び振動騒音プリント実施 (1級公論社問題集使用) 					
	8(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ZEインサイトを使用して振動騒音について検証する 1、車体振動(減衰力確認) 2、吸音材、制振材の種類、効果確認 3、排気騒音確認 4、ホイールアンバランス確認 					
	8(18)	<ul style="list-style-type: none"> ・GBフリードを使用して振動騒音について検証する 1、エンジン騒音確認 2、吸気、ファン騒音確認 3、ブレーキノイズ確認 					
	6(24)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部診断機の取り扱いについて理解する 1、i-HDS 2、HDM-2000 					
	2(26)	単元確認					
	4(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術のCVTについて学ぶ 1、ZEインサイトを使用してストール回転テストを実施 2、" スタートクラッチ機能点検 3、" インヒビタソレノイド駆動信号電圧確認・点検 4、CVT単品にて各種構成部品の確認 					

4(8)	<ul style="list-style-type: none"> •GBフリードでVSAについて学ぶ
	1、各種構成部品の確認
	2、舵角センサ脱着、信号波形の確認
	3、ヨーレート・Gセンサ脱着
	4、VSAセンサ中点書き込み
4(12)	<ul style="list-style-type: none"> •GBフリードでSRSエアバック、プリテンショナ・シートベルトについて学ぶ
	1、各種構成部品の確認
	2、サイド・カーテン・エアバックの脱着
	3、ケーブル・リール脱着
	4、サイド・インパクト・センサ脱着
	5、プリテンショナ式シートベルト脱着
4(16)	<ul style="list-style-type: none"> •新技術のCNGについて現車(三菱リベロ)で学ぶ
	1、教科書内容確認
	2、各種構成部品の確認
	3、高圧ガス保安法適用標章確認
	<ul style="list-style-type: none"> •新技術のコモンレールについて単品で学ぶ
	1、教科書内容確認
	2、各種構成部品の確認
	3、燃料流通経路確認
	<ul style="list-style-type: none"> •新技術の筒内噴射式エンジンについて単品で学ぶ
	1、教科書内容確認
	2、各種構成部品の確認
	3、インジェクタ噴射時間比較
4(20)	<ul style="list-style-type: none"> •新技術のHV(ハイブリット)について学ぶ
	1、教科書内容確認
	2、ZEインサイトのIMAバッテリーの脱着
	3、各種構成部品の確認
3(23)	総合復習
3(26)	実習確認

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 評価実習	小教科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	後期

教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
------	------------------	--	--	--	--	--	--

実務経験教員授業	該当	総時限	64時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価	取組加減
----------	----	-----	------	------	-------	------	------------------	------

・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

[授業概要・目的]

- ・ 基礎的な各種整備作業の技術的なスキルアップ及び整備関連知識の幅を広げる。
- ・ 国家1級口述試験対応

[授業目標]

- ・ 1級整備士としての各種整備作業能力を身につける。
- ・ 国家1級口述試験合格レベルを身につける

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

・1級エンジン電子制御装置 ・1級シャシ電子制御装置 ・1級総合診断 ・自動車定期点検の手引き ・法令教材

授 業 計 画 表

No. 1

STEP	標準時限	授業内容(項目)
	28(28)	・口述試験対応(問診)
		1、口述試験概要説明 2、問診概要説明 3、思考時間のポイント 4、問診ポイント
		5、職員デモストレーション 6、学生間ロールプレイ 7、対先生ロールプレイ
	4(32)	実習確認
	12(12)	実践整備技術①
		各種点検作業 (GB7リード、ZEインサイト)
		1、12ヶ月点検 2、24ヶ月点検 3、記録簿記入要領
	12(24)	実践整備作業②
		ブレーキ系整備作業 (GB7リード、ZEインサイト)
		1、ブレーキパッド交換 2、ブレーキライニング交換 3、各インナーキット交換 エア抜き作業
	4(28)	タイヤ交換作業実践
		1、タイヤチェンジャーを使用したタイヤ交換(脱着) 2、ホイールバルンサを使用してホイールバランスの調整
	2(30)	総合復習
	2(32)	実習確認

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実務実習 評価実習	小教科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	

教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊						
------	------------------	--	--	--	--	--	--

実務経験教員授業	該当	総時限	52時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験	レポート評価	取組加減
----------	----	-----	------	------	-------	------	-----------	--------	------

・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

[授業概要・目的]

- ・基礎的な各種整備作業の技術的なスキルアップ及び整備関連知識の幅を広げる。
- ・国家1級口述試験対応 ・SE2級実技試験対応

[授業目標]

- ・1級整備士としての各種整備作業能力を身につける。
- ・国家1級口述試験合格レベルを身につける
- ・SE2級実技試験合格レベルを身につける

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

・1級エンジン電子制御装置 ・1級シャシ電子制御装置 ・1級総合診断 ・自動車定期点検の手引き ・SE2級ハード・ソ

授 業 計 画 表	No. 1
-----------	-------

STEP	標準時限	授業内容(項目)
	12(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種点検作業 (GBフリード、GBインサイト) <li style="padding-left: 20px;">1、12ヶ月点検 <li style="padding-left: 20px;">2、24ヶ月点検 <li style="padding-left: 20px;">3、点検整備記録簿記入
	12(24)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレーキ系整備作業 (GBフリード、GBインサイト) <li style="padding-left: 20px;">1、ブレーキパッド交換 <li style="padding-left: 20px;">2、ブレーキライニング交換 <li style="padding-left: 20px;">3、各インナーキット交換 <li style="padding-left: 20px;">4、エア抜き作業
	2(26)	実習確認
	11(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・口述試験対応(整備内容説明) <li style="padding-left: 20px;">1、口述試験概要説明 <li style="padding-left: 20px;">2、口述DVD視聴 <li style="padding-left: 20px;">3、整備内容説明概要説明 <li style="padding-left: 20px;">4、思考時間のポイント <li style="padding-left: 20px;">5、整備内容説明ポイント

		6、職員デモストレーション
		7、学生間ロールプレイ
		8、対先生ロールプレイ
	3(13)	実習確認
	12(25)	SE2級実技試験対応 (GBフリード・ZEインサイト)
		1、灯火回路故障探求実践
		2、エンジン系故障探求実践
		3、シャシ系故障探求実践
	1(26)	SE2級 (ソフト編) 復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	経営概論	対象級	専門課程 一級自動車整備研 究科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊 中林 昭雄						
実務経験教員授業	非該当	総時限	17時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 単元試験 取組加減
〔授業概要・目的〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・1級整備士としての対人関係能力及びコミュニケーション能力の向上。 ・相手(個人及び集団)への影響力を高める(PIA) 							
〔授業目標〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスタイルを知り、相手にあった対応力を身につける。 							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
PIAテキスト、ディーラーオペレーション研修テキスト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	ディーラーオペレーションテキスト内容の理解					
	2(4)	PIA事前アンケート					
	12(16)	PIAオリエンテーション研修					
		1、PIAオリエンテーション					
		2、コミュニケーションとインフルエンس					
		3、ソーシャルスタイルの理解					
		4、ソーシャルスタイルの判定(相手のスタイルを知る為の技術)					
		5、共感性の高め方					
		6、異なるソーシャルスタイルへの対応法					
		7、インフルエン�プロセス					
	1(17)	単元確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	19/04/04
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊 中林 昭雄 勝沼 敦						
実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 単元試験 取組加減
〔授業概要・目的〕							
・販売会社における実務としての知識を身につけると共に、接客実務の能力向上を図り実践する。							
〔授業目標〕							
・身につけた接客実務の知識を実践できるようになる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
ディーラーオペレーション研修テキスト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4(4)	接客マナー研修					
		外部講師による接客マナーの基本講習					
	2(6)	コミュニケーション講座					
	2(8)	販売会社の周辺知識					
	2(10)	マナー研修(マナー、常識の基本、挨拶、お辞儀、言葉遣いの練習)					
	3(13)	サービス営業活動					
	4(17)	サービスフロントとして身につけたい知識					
	1(18)	単元確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	#####
教科担当	松下 忠史 渡邊 英俊					開講期	後期
実務経験教員授業	非該当	総時限	17時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 単元試験 取組加減
〔授業概要・目的〕							
・販売会社における実務としての知識を身につけると共に、接客実務の能力向上を図り実践する。							
〔授業目標〕							
・身につけた接客実務の知識を実践できるようになる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
ディーラーオペレーション研修テキスト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	5(5)	【営業実務】					
		【販売の基本活動】					
	1(6)	【Hondaの施策】					
	10(16)	【サービス部門マネジメント基礎】					
		【基本事項の確認】					
		1、会社・組織・経営・管理・リーダーシップ					
		2、サービス部門の目的と役割					
		【サービス部門運営のポイント】					
		1、サービスマネージャの役割業務					
		2、仕事の進め方の基本					
		3、サービス活動					
		【計数管理の基本】					
		1、計数管理 (サービスデータ)					
		2、売上管理 (売り上げ・経費・利益の関係)					
		3、計数管理の基本公式 (工賃稼働率、サービスカバー率、点車検実施率)					
	1(17)	単元確認					